

検 定 意 見 書

受理番号 107-77		学校 高等学校		教科 理科	種目 地学	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	38	26	「地磁気をつくるしくみを、ダイナモ理論という。」	不正確である。 (しくみは理論ではない。)	3-(1)	
2	40	11 - 12	「宇宙線」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)	
3	40	図37	「地磁気の逆転の年表」の中	不正確である。 (地磁気極性を示す白黒について)	3-(1)	
4	41	7 - 8	「北極の向きは現在の南極を」と「南極の向きは現在の北極を」	不正確である。 (表現として)	3-(1)	
5	41	17 - 18	「境界の基準となっている。」	生徒にとって理解し難い表現である。 (図i説明文「白い火山灰層の上にチバニ안의地層がある。」との関係について)	3-(3)	
6	49	表1	丹沢山地の衝突したプレート・地塊「西南日本弧と」と175ページ図1(以下、脚注①「糸魚川-静岡構造線(→p.182)より東側を東北日本、西側を西南日本という。」)	不正確である。 (互いの対応について)	3-(1)	
7	50	10	「地質年代の気候帯」(以下、52ページ22-23行「地質年代を通して」、161ページ9行「地質年代ごとの形態変化」)	不正確である。 (表現として)	3-(1)	
8	61	図25	(c)「古テチス海」の描写(以下、189ページ図14)	不正確である。 (165ページ図32との対応について)	3-(1)	
9	73	11 - 12	「地震後に地盤が沈降」	不正確である。 (時期について)	3-(1)	
10	75	3	「令和6年能登半島地震(2024年, Mw6.9)」	不正確である。 (マグニチュードの値について)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 107-77		学校 高等学校		教科 理科	種目 地学	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
11	76	7	「地震が発生すると、断層が急激にずれ動く。」	不正確である。 (地震と断層の関係について)	3-(1)	
12	79	6 - 8	「水平方向の動きからは、東北地方では日本海側の東への移動量が太平洋側の移動量より大きいことから東西方向に圧縮されていることがわかる(図19(b))。』	不正確である。 (78ページ図19(b)の読み取りとして)	3-(1)	
13	80	21 - 22	「海面の低下(海退)」(以下、80ページ24行「海面の上昇(海進)」, 288ページ26行「海面低下(海退)」)	不正確である。 (括弧内外の対応について)	3-(1)	
14	82	図24	水色の破線	不正確である。 (諏訪盆地北部の断層の分布について)	3-(1)	
15	84	図26	「かんらん岩の融解曲線」全体	不正確である。 (融解開始温度との対応について)	3-(1)	
16	86	脚注①	「杉村新(1923～)によって発見された。」	不正確である。 (火山前線について)	3-(1)	
17	99	13 - 14	「このとき、付加体の中では、下ほど新しい累重関係がつけられる。」	生徒にとって理解し難い表現である。 (図38との関係について)	3-(3)	
18	102	図42	右写真のスケール「9 mm」	誤りである。 (大きさについて)	3-(1)	
19	114	図5	タイトル「黒部峡谷」	不正確である。 (写真との対応について)	3-(1)	
20	124	1	「斜面災害は、一般的に崖崩れ、土石流、地すべりの3つに分類される」(以下、図28タイトル「斜面災害」)	不正確である。 (自然現象と災害を混同している。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 107-77		学校 高等学校		教科 理科	種目 地学	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
21	133	4	「地層や岩盤に引っ張り、あるいは圧縮の力がはたらき、」（以下、187ページ図11中右「ここにはたらく力は伸張の力から圧縮の力に変化した。」、196ページ22-23行「水平方向に引っ張	不正確である。 (地層や岩盤にはたらく力について)	3-(1)	
			りの力が加わり、地殻表層に多数の正断層が生じた。)」			
22	133	12 - 13	「褶曲の曲がりの中心部を結んだ線を褶曲軸という。」	不正確である。 (褶曲軸の用法について)	3-(1)	
23	134	7	「下位」と136ページ12行「上位」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)	
24	143	図53	三段目の矢印	不正確である。 (「U, Th-Pb (ウラン, トリウム-鉛法)」の測定される放射性年代[年代]について)	3-(1)	
25	164	4 - 5	「デボン紀には裸子植物が出現した」と165ページ7-11行「石炭紀の・・・, 陸上では裸子植物が現れた。」	不正確である。 (互いの対応について)	3-(1)	
26	164	図31	「酸素濃度[%]」と「二酸化炭素濃度[%]」	生徒にとって理解し難い表現である。 (何の割合であるか示されていない。)	3-(3)	
27	165	15 - 16	「地磁気の逆転パターンに大きな変化が起きた。」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (地磁気の逆転に規則性があると誤解する。)	3-(3)	
28	171	9 - 10	「現在の月や火星のように内部まで固化した惑星」	不正確である。 (内部の状態について)	3-(1)	
29	172	図43	タイトル「過去350万年間」	不正確である。 (図との対応について)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 107-77		学校 高等学校		教科 理科	種目 地学	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
30	173	4	「熱」及び5行「熱量」	不正確である。 (太陽から受け取るものとして)	3-(1)	
31	182	図	「第四紀の火山前線」を示す赤破線	不正確である。 (位置について)	3-(1)	
32	198	図22	隆起・沈降量の描写	不正確である。 (伊豆半島周辺について)	3-(1)	
33	227	7	「雪の結晶」(以下、8行の同語)	不正確である。 (積乱雲中での電荷分離を担うものとして)	3-(1)	
34	229	図31	「受け取るエネルギー」枠の下段「+97」	不正確である。 (左図との対応について)	3-(1)	
35	237	7 - 8	「これは、転向力の大きさは風速に比例するためである。」	不正確である。 (地衡風の低緯度における大きさの説明として)	3-(1)	
36	246	図17	説明文「台風の中心は回転する速さが大きく、遠心力が大きいため」	不正確である。 (台風中心の様子について)	3-(1)	
37	281	7	「温帯低気圧」	不正確である。 (250ページ10-11行及び脚注①との対応について)	3-(1)	
38	288	12	「385」、13行「71」及び「425」	不正確である。 (287ページ図10との対応について)	3-(1)	
39	294	2	「オゾン破壊物質」	不正確である。 (塩素分子が紫外線によって変化するものとして)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 107-77		学校 高等学校		教科 理科	種目 地学	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
40	306	4	「地球の公転は、17世紀になってケプラーによって明らかにされ」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「公転の証拠」として)	3-(3)	
41	322	14	「冥王星より大きな天体(エリス)」	不正確である。 (大きさについて)	3-(1)	
42	342	18 - 19	「ほとんどの元素は、その元素による吸収が最も強くなる温度が決まっているためである。」	不正確である。 (329ページ4-8行との対応について)	3-(1)	
43	349	図9	上右「巨星」	不正確である。 (346ページ図7との対応について)	3-(1)	
44	365	図1	説明文1行「銀河面」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)	
45	381	15	「数十個の」	不正確である。 (局部銀河群に含まれる銀河の数について)	3-(1)	
46	388	表	「近くの(3000光年以内の)恒星」	不正確である。 (338ページ14-15行との対応について)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。